

令和元年度 第6回 三重県総合教育会議 議事録（概要）

- 1 日時 令和元年12月24日（火） 15:00～16:30
- 2 場所 三重県勤労者福社会館 6階 講堂
- 3 出席者 知事、教育長、教育委員4名
- 4 議題 ・地域課題解決型キャリア教育について
- 5 主な意見 ○：教育長・教育委員 ●：知事

<地域課題解決型キャリア教育について>

事務局からの資料の説明に引き続き、地域課題解決型キャリア教育に取り組んでいる県立高等学校3校の生徒から、取組内容についての発表が行われた。

・紀南高校

（みかん産業を体験的に学習、みかん検定の作成）

・飯南高校

（フィールドワーク、教科横断的な学習、地域と協働して学ぶ課外活動）

・あけぼの学園高校

（フィールドワーク、伊賀の食材を利用したパンの開発、

伊賀の材料を利用した美容商品の販売活動）

- 紀南高校は地域の課題を明確に把握していること、飯南高校はフィールドワークを通じて課題を実感していること、あけぼの学園高校は系列ごとにプロジェクトを行っているなど、各校それぞれの特徴を感じた。

PBL（課題解決型学習）に取り組む際には、活動をすること自体が目的化してしまうことで地域の課題とリンクしなくなる点に注意が必要である。

生徒たちが失敗することもあると思うが、そのときに教員やコーディネーターがどう支えるかが重要である。

- 紀南高校の商品開発について、具体的にどのようにプロジェクトを進めていくのか。

（生徒：金型を作っている愛知県の高校の協力を得て取り組んでいきたい。）

商品を開発していき、いつかコンビニで目にすることを楽しみにしている。

飯南高校の発表では、お茶をペットボトルで飲む習慣がお茶文化の浸透を阻害する要因として紹介されていたが、健康志向の広がりや捉えればお茶文化を推奨していくうえでのメリットと考えることもできると思う。取組にある「ラテアート」をインスタグラムで閲覧することは可能か。

（生徒：現在フェイスブックで宣伝しているが、インスタグラムへの展開も検討中である。）

SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）は、うまく使えば効果的である。

あけぼの学園高校の美容商品について、三重テラスでの販売実績はどうか。

(生徒：3年生が34~35本、1年生が124本、2年生が172本を販売した。)

地元の美容室で使っていただけるよう、取り組むとよいと思う。

- 紀南高校から発表のあった、他校の先進的な取組が自校の取組への刺激となったという話は、ビジネスの世界における競争原理と同じである。大学生や地域の大人たちの取組とも比較することで、前向きな推進力としてほしい。

飯南高校の、お茶を急須で飲む習慣が廃れてきたという報告から地域の課題と文化の継承をつなげて解決をはかることが有益であると感じた。

- この活動は学校設定科目等の授業で実施しているが、取組をはじめた頃と現在ではどう変化したか、聞かせてほしい。

(生徒：「地域産業とみかん」の授業には最初は興味本位で参加したが、やがて、みかんは思った以上に地域にとって身近な存在であることがわかった。全国的な知名度アップに取り組んでいきたい。)

(生徒：フィールドワークに参加して、地域の歴史や文化など地域の方々に聞いてみて初めて知ることがたくさんあることがわかった。地域の方々とつながることが大切だと思えるようになってよかった。)

(生徒：製パン実習は、楽しそうと思い選択した。伊賀の食材にこだわったパンの開発に携わることを通じて、ものづくりの楽しさや大変さを実感することができた。)

(教員：地域の方々の声を聞きながら課題解決に取り組む中で、生徒が成長していく姿を見ることができた。)

(教員：地域の方々の生の声を聞くことで、生徒だけでなく教員にとっても学びになった。)

(教員：10月に実施したフィールドワークを、12月に実施したインターンシップと接続することで、より深く学ぶことができるよう改善したい。)

- 実際に地域で働いている大人と関わってどう感じたか、生徒のみなさんから一言ずついただきたい。

(生徒：とても格好よかった。)

(生徒：一人前の大人として、自分の意見を尊重して聞いてもらえた。また、私たちに足りないところを教えてくれて、引き上げようとしてくれた。)

(生徒：やりたいことを大人を巻き込みながら実現できたことは、よい経験となった。)

(生徒：自分たちだけではできないことがあることを知ることができて、感謝している。)

○ 今回の報告では、キャリア教育に取り組む中で、生徒の皆さんが自己肯定感を得られたことが伝わった。今後は、地域にとっての利益とすること、地域に貢献することで達成感が得られることを、より意識してほしい。

● どの学校の発表も、今後の取組への意欲が含まれていたことは、この取組を面白いと感じ主体的に取り組んでいるからだと思う。

また、この取組を通じて、価値観の違いを認め合いながら人との出会いを大切にすることを学んでもらいたい。

これからは、何かを成し遂げたときの達成感などの「感覚」と、何かを行う手順や方法などの「論理」を大切にしてほしい。また、ものごとを成し遂げるときにはチームづくりが大切になることを意識して取り組んでほしい。

以上